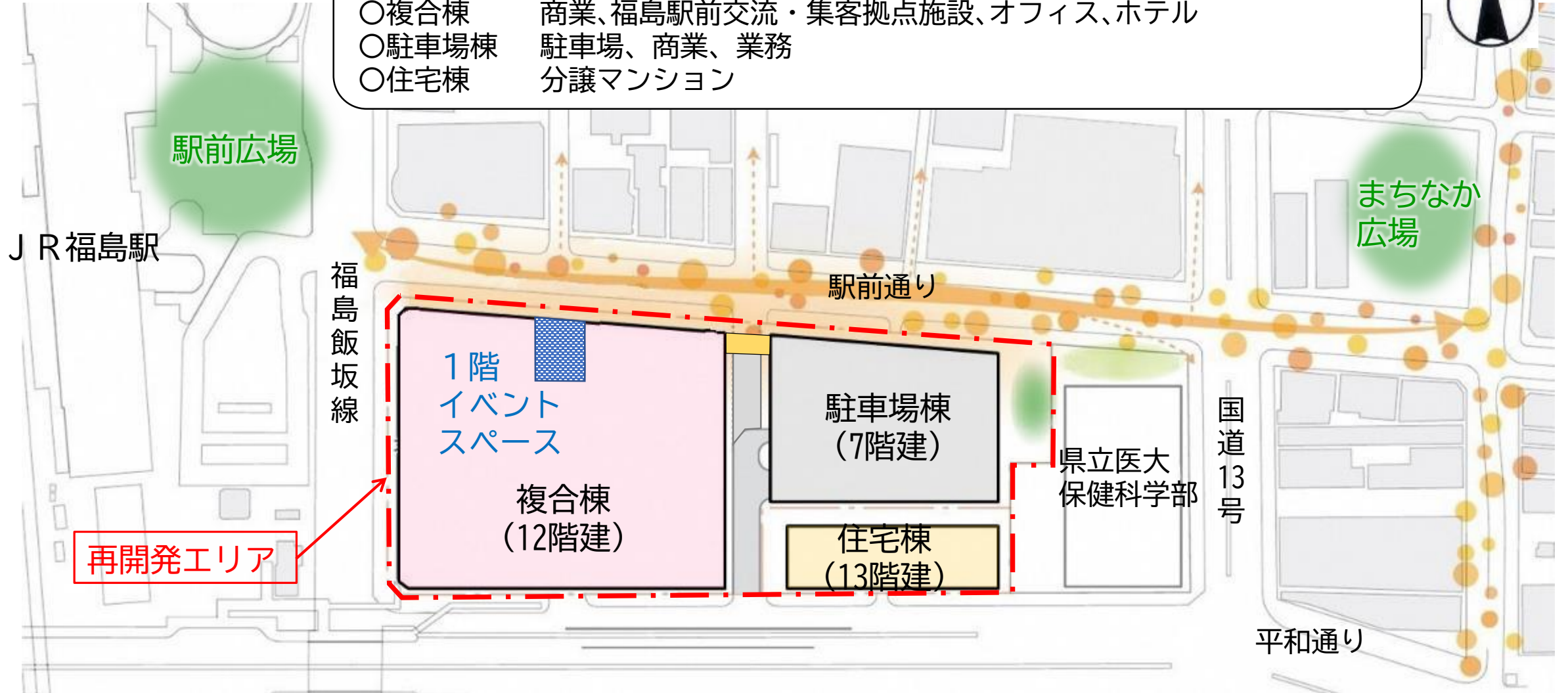


【R4.5月時点】

- 事業費 約492億円【補助金約244億円 ※国1/2、県・市1/2】
- 敷地面積 約1.4ha
- 延床面積 約72,540㎡
- 複合棟 商業、福島駅前交流・集客拠点施設、オフィス、ホテル
- 駐車場棟 駐車場、商業、業務
- 住宅棟 分譲マンション



東口再開発について ～福島駅前交流・集客拠点施設の概要～

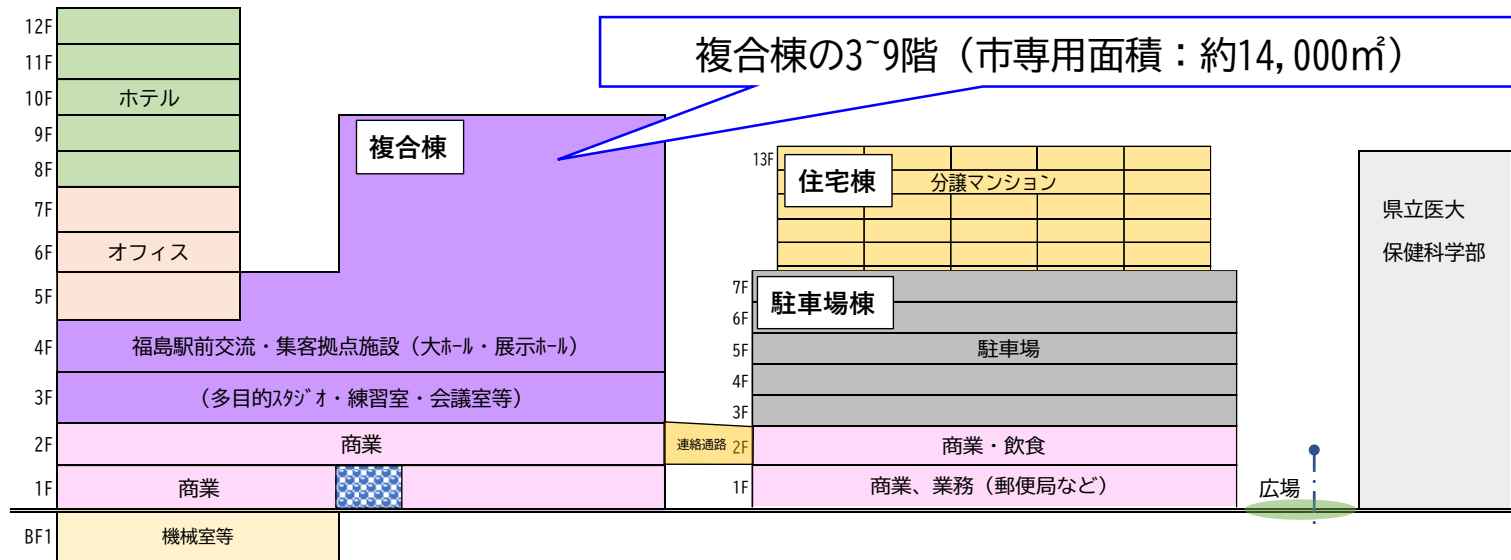
【R4.5月時点】

施設概要

構成	機能
大ホール・展示ホール	大ホール時…1,500席程度 展示ホール時…ロビー・ホワイエ含め3,000㎡程度 大ホール・展示ホール併用…800席程度、2,300㎡程度 ⇒ 最大3,000人規模の催事が可能
多目的スタジオ	300㎡程度
練習スタジオ	20～40㎡程度を2室
会議室（大・中・小）	大・中・小会議室



※大ホールのイメージ



※イメージパース

東口再開発における「駅前交流・集客拠点施設の整備に関する考え方」

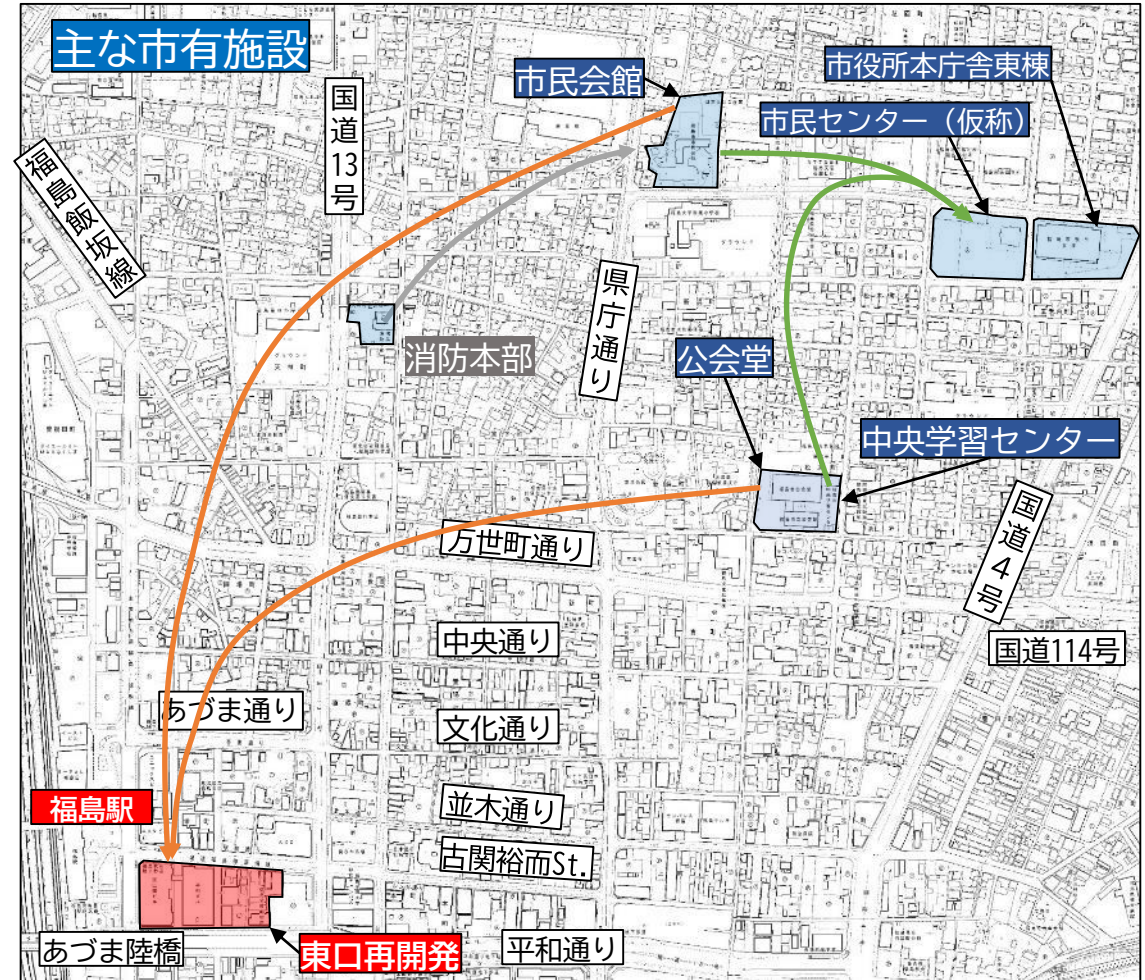
市民会館・公会堂・消防本部など
市民にとって重要な施設が耐震性不足や老朽化

(コンベンション機能等について、建替え等のプロジェクトを単独で検討するのではなく)賑わい創出や交流人口拡大の観点から駅前(福島市中心市街地将来ビジョンに関する提言書)

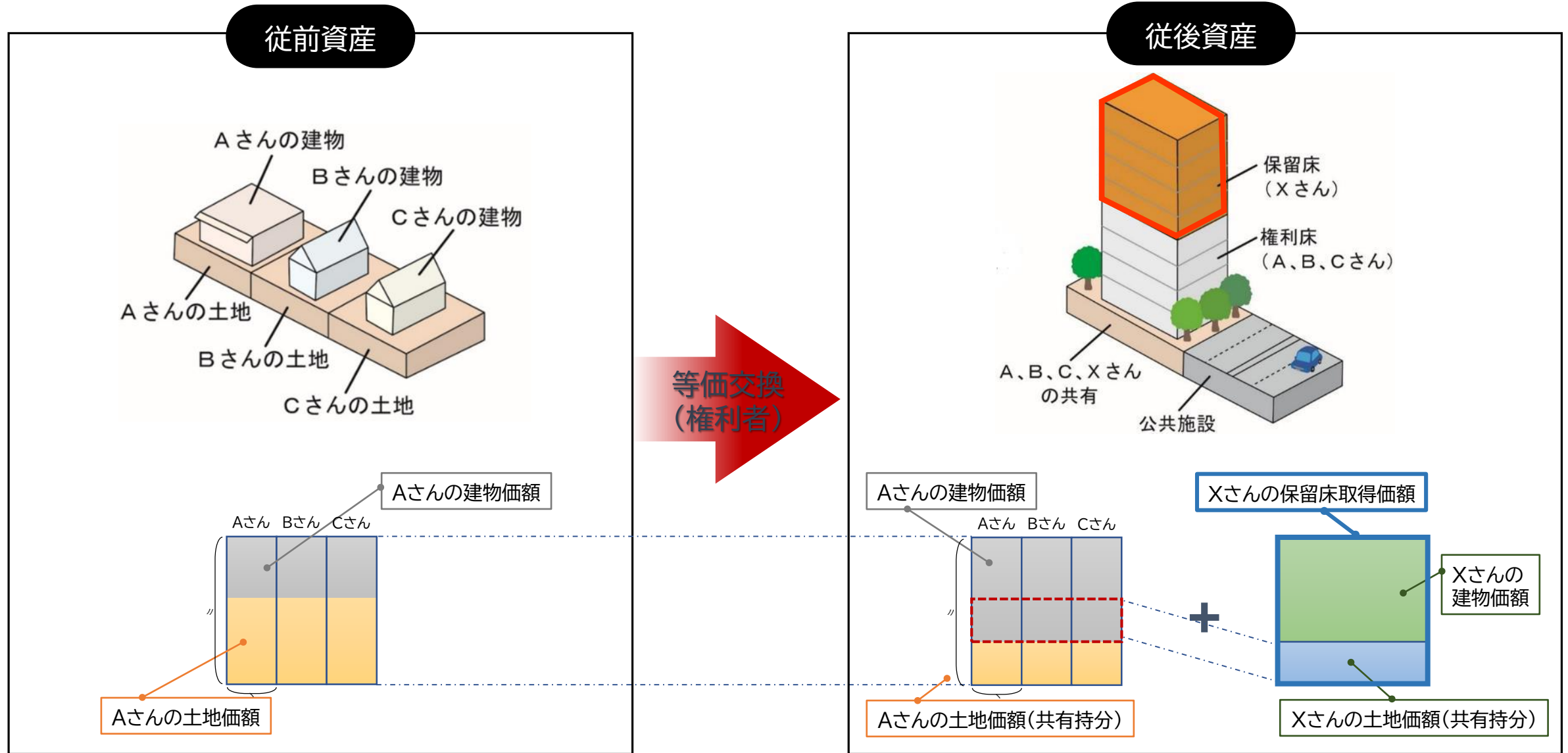
人口が減少するなか、将来にわたり持続可能な量と質に転換するとともに、交流人口拡大や市民の利便性向上のため中心市街地に再編を(福島市公共施設の戦略的再編整備に関する提言書)

中心市街地が県都にふさわしい魅力的な広域拠点となるよう、本市集客施設の中核である市民会館・公会堂に替わる施設を福島駅東口に整備

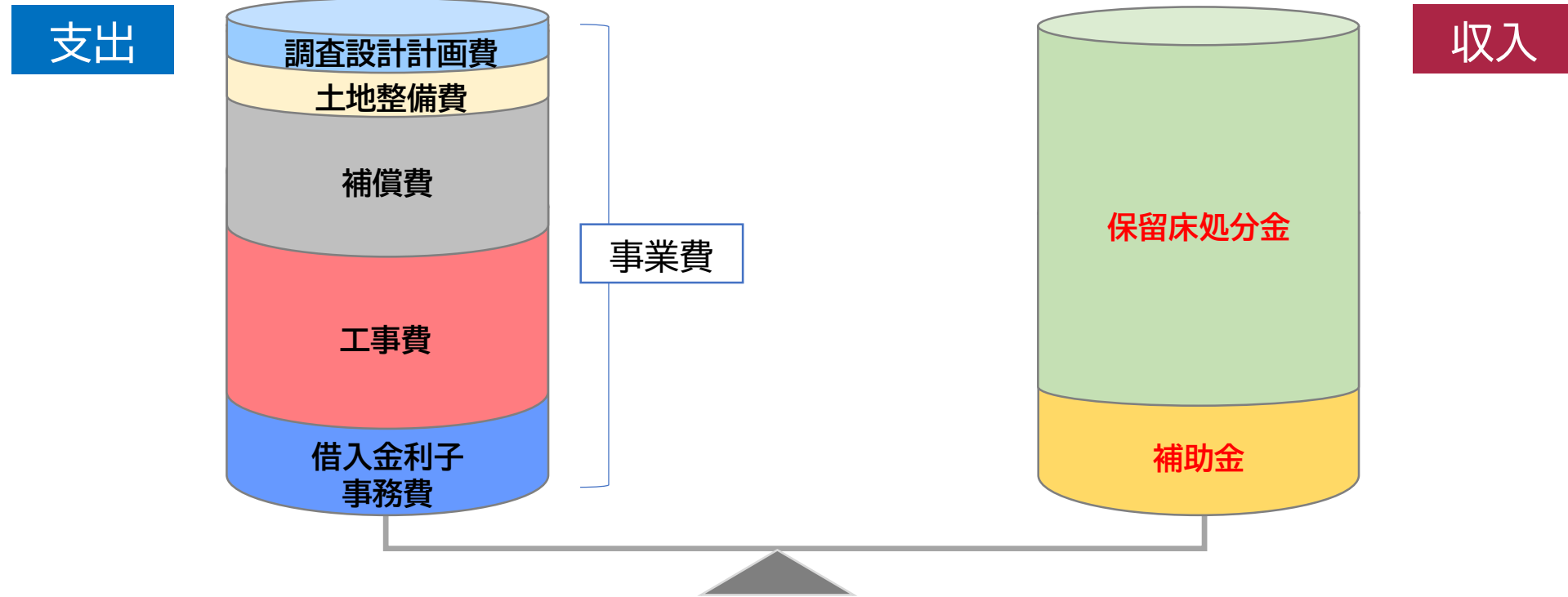
再開発で整備される民間施設との連携を図りながら、この施設を核として人の流れをつくってエリアの価値を高め、周辺への民間投資を呼び込み、賑わいをつくっていく



市民会館の一部機能+公会堂→東口再開発
中央学習センター+市民会館の一部機能→市民センター(仮称)
消防本部→市民会館 ※消防は現位置建替え不可(業務継続のため)



等価交換とは、具体的には、権利者の『従前資産の価額＝従後資産の価額』

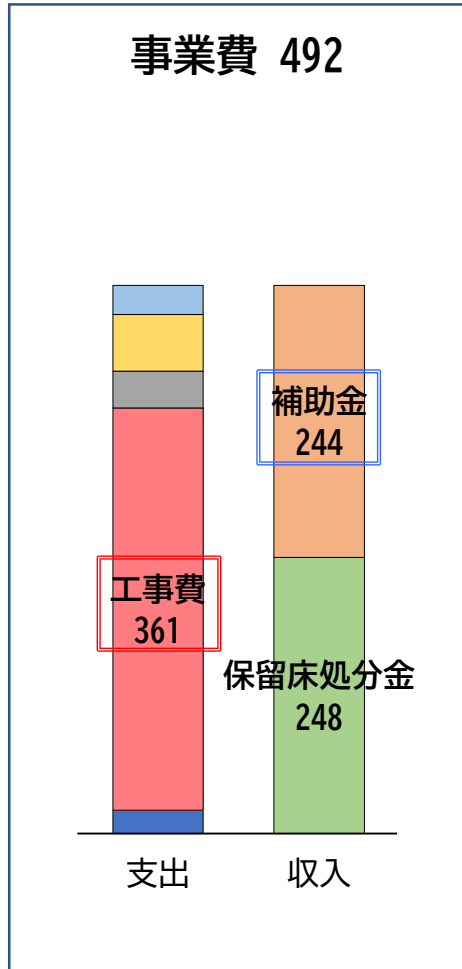


- 再開発事業の事業費は、「保留床処分金」「補助金」で賄われる。
- 権利者の持出しはなく、銀行からの借入れ等により資金を調達する必要はない（上図の「借入金利子」は、つなぎ資金の借入れによるもの）。

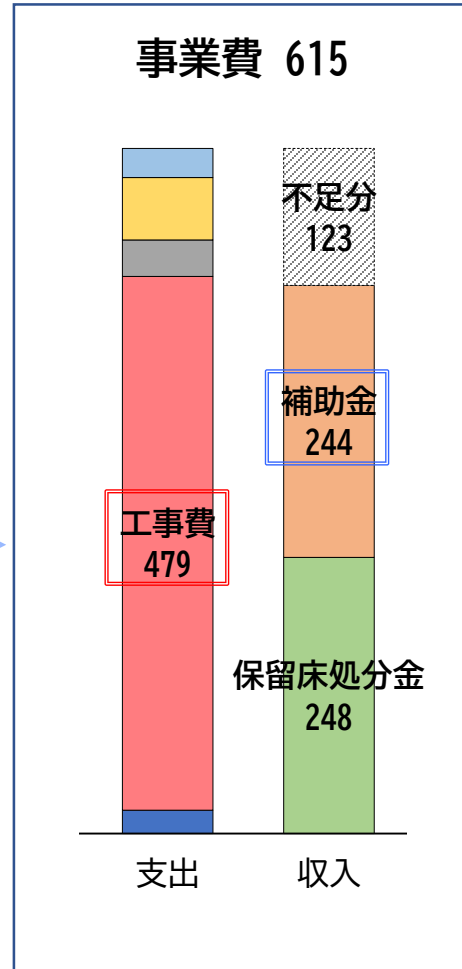
※権利者は、土地の権利の一部を保留床取得者に譲渡するかわりに権利床を取得する。

(単位：億円)

R4.6月時点
(事業計画認可時)



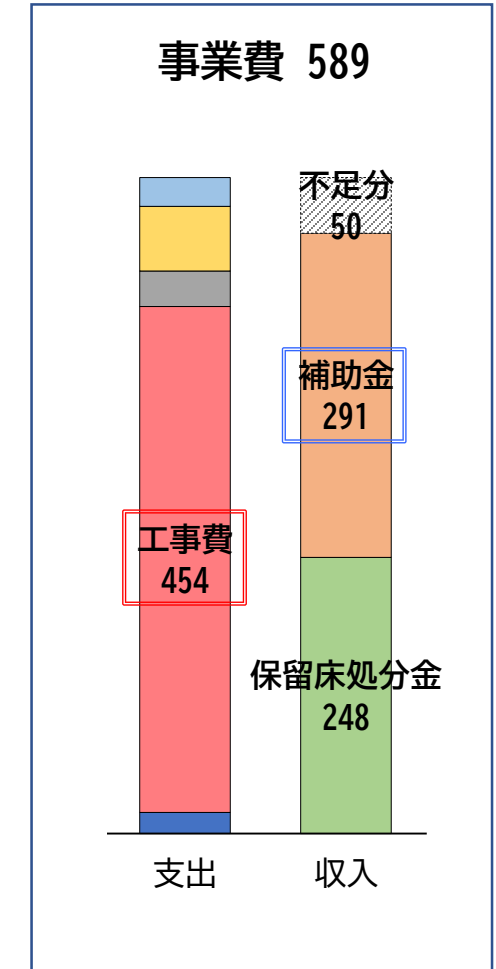
R5.6月時点
(工事費高騰)



使用資材の変更 ▲17億円
 施設計画の再調整 ▲8億円
 補助金の増※ +47億円
 (R5.6月全員協議会後の検討)

※工事費増に応じた補助金の上乗せ、
 新たな補助金の導入

R5.10月時点
(コスト縮減等検討後)



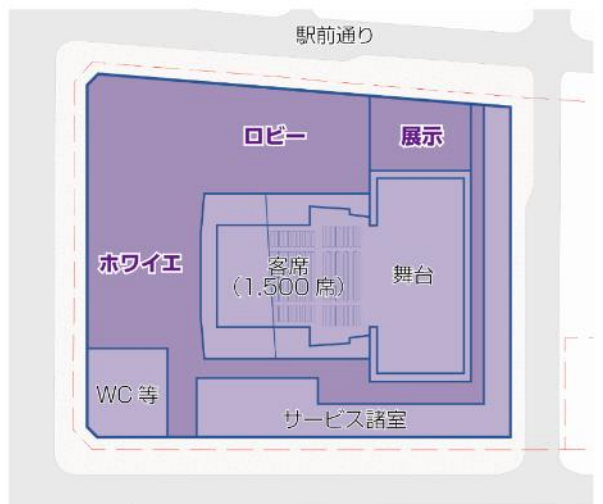
■ 事務費等 ■ 工事費 ■ 用地費及び補償費 ■ 土地整備費 ■ 調査・設計・計画費 ■ 保留床処分金 ■ 補助金 ■ 不足分

複合棟の分棟化について

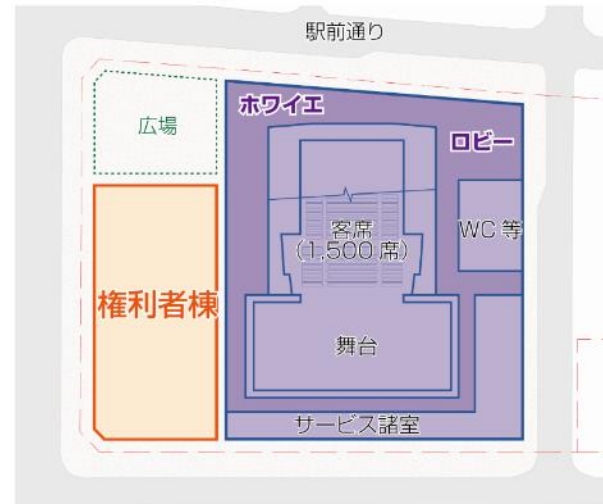
- ◆ 権利者等のランニング収支の改善、市施設の先行オープンを念頭に検討。ただし、具体的な設計段階では、以下の点に留意する必要。
 - ① 権利者棟・公共棟に分けつつ、有機的につながり相互に連携することで、相乗効果を生むこと ※現行計画(複合棟)では、権利者部分と公共部分が上下階でつながり、相互連携。
 - ② 周辺への波及効果を得られるようなコンセプト・施設計画とすること

平面図

現計画



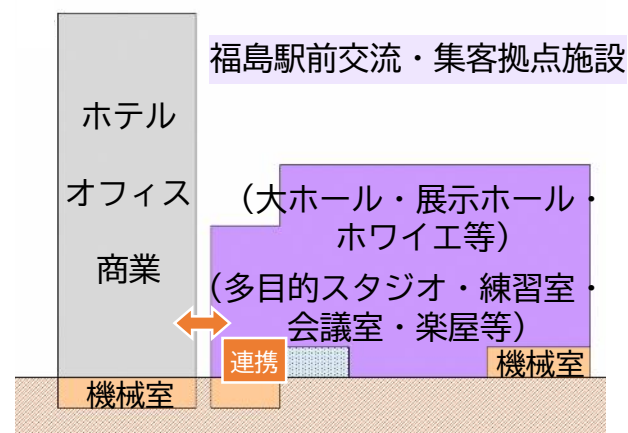
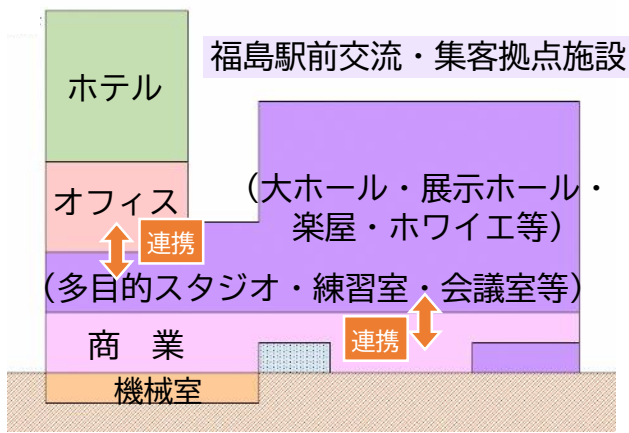
分棟化 (権利者棟+公共棟)



複合棟の分棟化の検討結果

- (1) 市施設の設計が窮屈となり、使い勝手が悪くなる。【ロビー・ホワイエ（ホールとの一体活用を想定）が十分に確保できないなど】
- (2) テナント誘致の目途が立ち、権利者棟の構成を決めなければ、再開発事業として成立するか確認できず、資金※調達ができない（市施設のみ先行着手できない） ※つなぎ資金
- (3) 共用部分の経費分担の軽減、ランニング収支の改善に一定の効果が見込まれる。

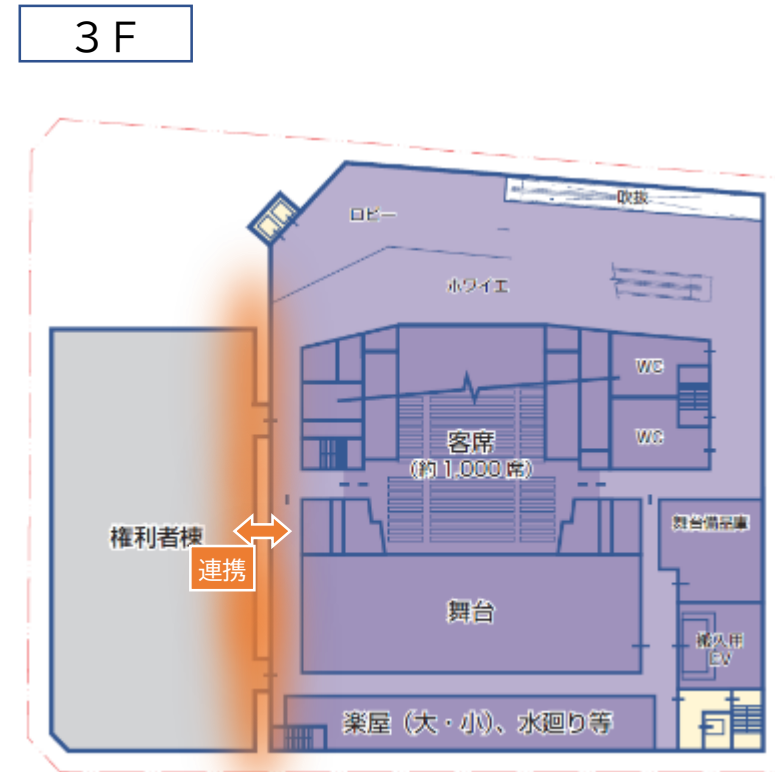
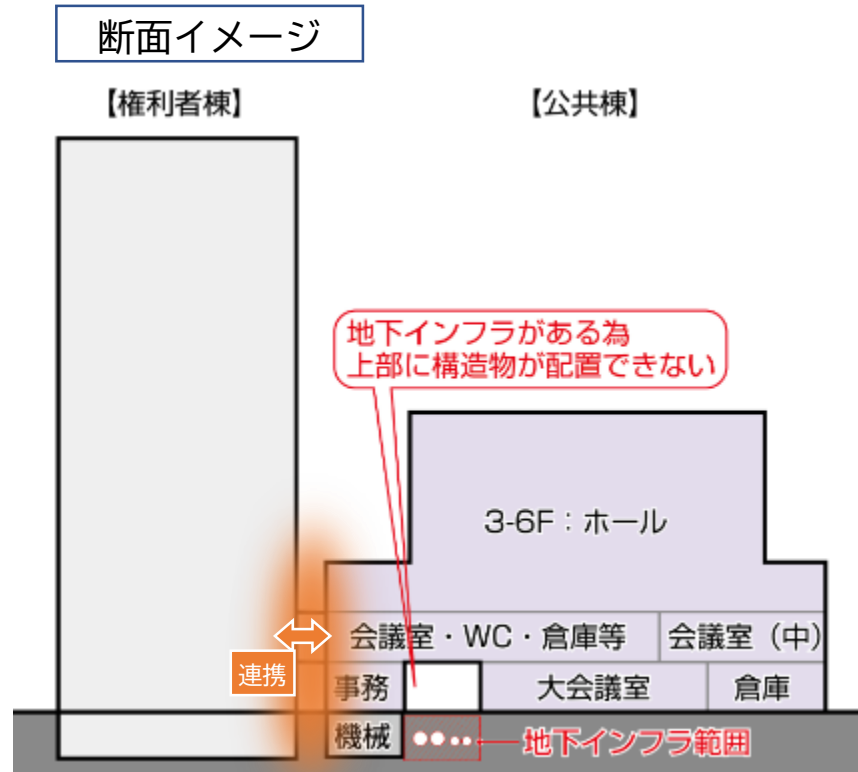
断面図



分棟化＋ダウンサイジング案について

- ◆ 分棟案の検討結果を踏まえ、分棟案をベースに、規模、機能等の見直しを検討。
 - ① 権利者棟の規模等の見直しを検討
 - ② 公共棟部分の敷地の中でどのような市施設を整備すべきか、という観点から劇場ホール単独案、コンベンションホール単独案を検討。

劇場ホール単独（約1,000席）



<施設イメージ>

- ・地下1階～地上6階
- ・延床面積 約1万6千㎡
- ・ホール客席数 約1,000席（段床式）

<催事イメージ>

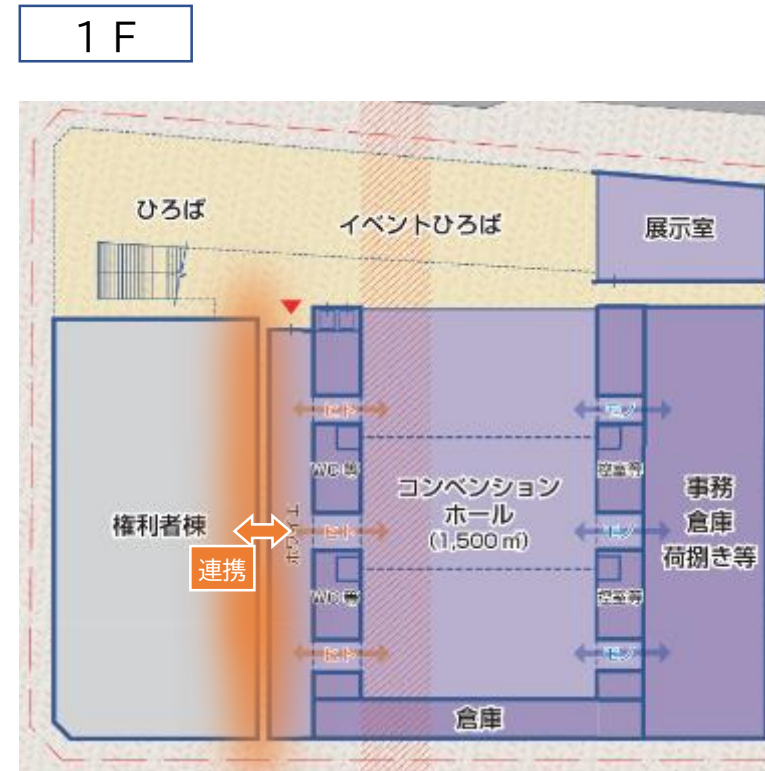
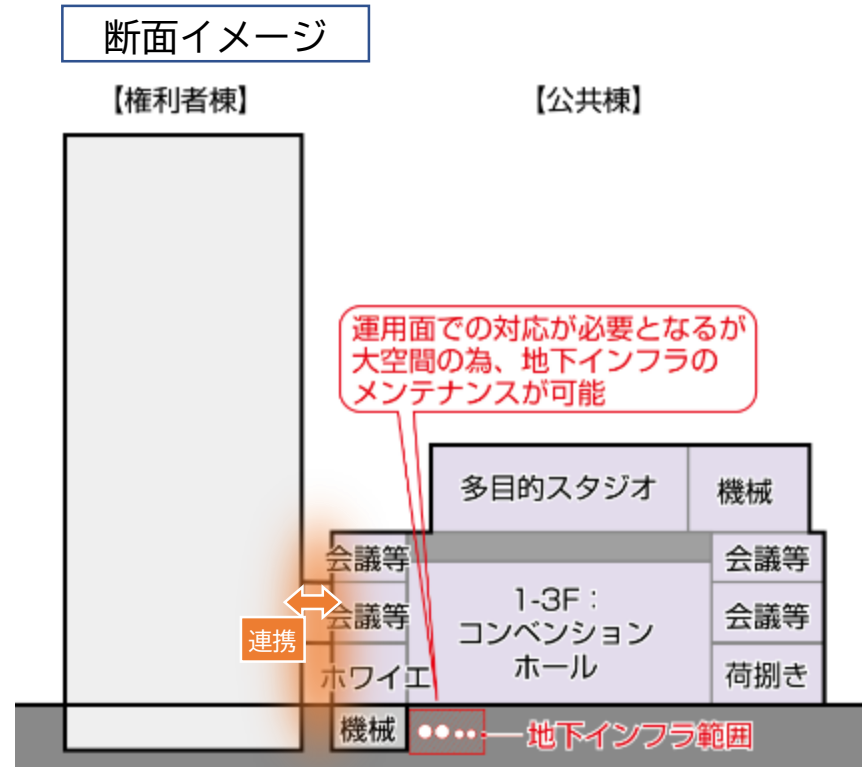
- ・音楽や演劇、舞踏等の公演、大会や学会等のコンベンション

<再開発事業全体の概算工事費>

- ・約360～410億円（仮の工事費単価や想定面積による仮試算のため変動の可能性あり）

※事業計画認可時：361億円 ⇒ 工事費高騰：479億円 ⇒ コスト縮減等検討後：454億円

コンベンションホール単独案（約1,500㎡）



<施設イメージ>

- ・地下1階～地上4階
- ・延床面積 約1万㎡
うちホール 約1,500㎡（平土間式）
（ホール内で最大1,500人規模の催事が可能）

<催事イメージ>

- ・フェスタ・物産フェア、展示・エンタメ等各種興行イベント、大会や学会等のコンベンション、ロックやポップス等の音楽ライブなど
- ・駅前通りや広場と連続したホールの活用（わらじまつり、ホコ天イベントとの連動）

<再開発事業全体の概算工事費>

- ・約290～340億円（仮の工事費単価や想定面積による仮試算のため変動の可能性あり）

※事業計画認可時：361億円 ⇒ 工事費高騰：479億円 ⇒ コスト縮減等検討後：454億円

【分棟化＋ダウンサイジング（案）の課題】

- ◆ 再開発事業の収支を成り立たせるため、コンベンションホールか劇場ホールのいずれか一方のみを整備することとすべきか。
- ◆ 劇場ホール・コンベンションホールいずれか一方を先行整備する場合、もう一方の機能をどのようにすべきか。（確保するか否か、確保するならどのように、など）

運営主体について

運営主体に「求める姿」

- 施設管理に加え、催事の企画運営、まちなかイベントとの連携などソフト面に強い
- 特に学会や国際会議などのコンベンション機能については、誘致、宿泊、アフターコンベンションなど、高度かつ多様な業務をこなせる
- 県外事業者も含める

運営方法について【福島型管理運営事業】

1. 民間の専門性や創意工夫を最大限に活用できること
指定管理者制度 + 公共施設等運営権制度
⇒公の施設としての公共性を確保したうえで、民間の専門性や創意工夫を生かすことが可能
2. コンベンションを開催するにあたって開業2～3年前から誘致活動(開業準備)できること
EOI(Early Operator Involvement)方式 早期からの運営者関与
⇒早期に管理運営主体を選定し、市と施設理念を共有しながら、ともに開業準備を行うことにより開館直後から交流・集客機能を発揮することが可能

～ これまでの経過と今後の予定 ～

R4. 12月 「福島駅前交流・集客拠点施設の公共施設等運営権に係る実施方針に関する条例」を制定

R5.2月～ 審査委員会 管理運営方式／実施方針案／要求水準書案などについて協議

施設方針・設計の進捗を見ながら、施設取得のための予算案を提出し、議決後、運営主体を公募する見込み

(1)コンベンション誘致活動

○商談会への出展や、大学の教員や研究者への訪問による誘致セールスの展開

- ・誘致活動〈R1〉22件
→ 〈R5〉93件（1月末現在）

※施設の開業遅れにより、機会逸失が生じるなど、営業誘致に支障

(2)コンベンション開催支援

○開催に対する補助やエクスカージョン支援の実施

○福島競馬場などユニークベニューの活用、会場でのくだもの販売による風評払拭、子ども向け講演会の開催など、本市ならではの開催支援

- ・開催実績〈R1〉22件
→ 〈R5〉24件（1月末現在）

(3)コンベンション推進体制の強化

○市と観光コンベンション協会が中心となり、さらなる誘致に繋げるため体制強化

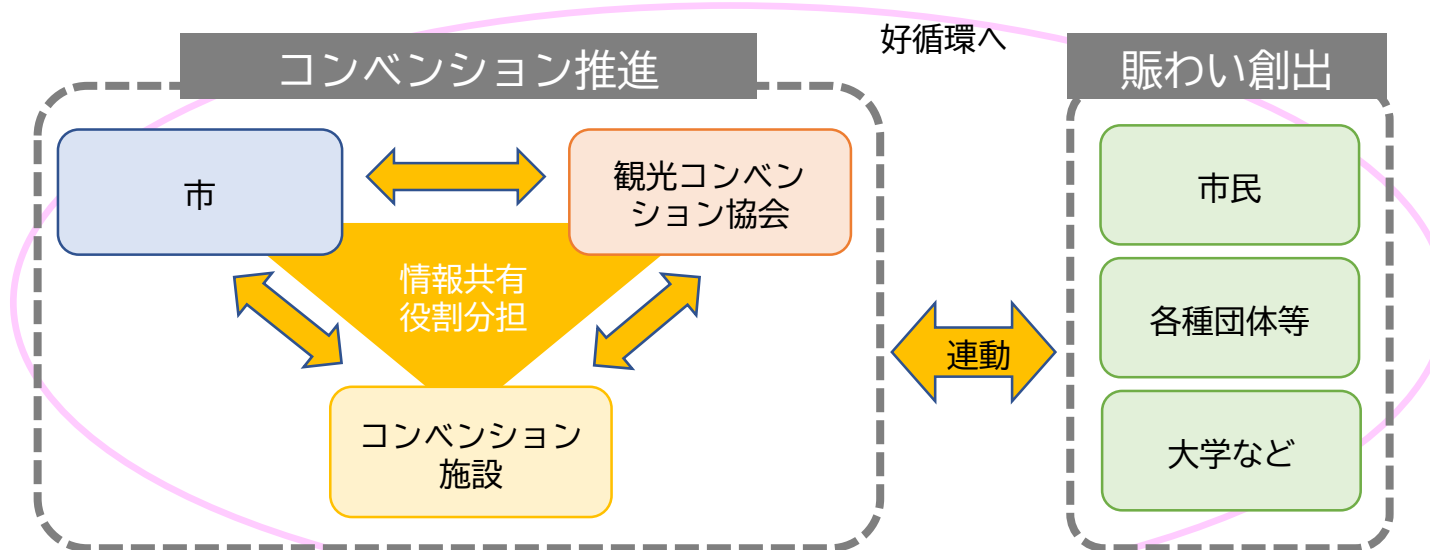
○令和6年度はMICE戦略を策定するなど、より多くの関係者と共にまち全体で推進するための基礎を構築

○市の組織体制を「コンベンション施設整備課」から「コンベンション推進課」へ

(4)街なかの賑わい創出

○街なかへ出店する際の家賃や工事費の一部を補助するとともに、若者などの各種団体等が実施するイベント開催を支援し、年間を通じて切れ目のない賑わいを創出

- ・まちなか賑わい創出プロジェクト
〈R4.7月〉11団体 → 〈R6.1月〉72団体
- ・イベント補助の実績（まちなかエリア）
〈R4〉35件 → 〈R5〉44件（1月末現在）
- ・空き店舗への出店等支援
（再生リノベーション支援・空き店舗出店支援）
〈R2～R6.1月〉累計111件 ※重複を除いた実数



福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画(※) 概要①

※以降「整備基本計画」という

公会堂と市民会館に替わる施設として、市民の文化芸術活動の促進とコンベンション機能の強化を図る

施設のコンセプト

多様な交流・にぎわいを創出するふくしまコンベンション

コンセプトを実現するための3本の柱

市民による
日常的な利用が
活発な施設

市民活動の拠点



生涯学習活動・文化活動

(一部機能は市民センターに備わる)

まちのにぎわいを
生み出す施設

にぎわい創出の拠点



コンサート

物産展・展示会

立地ポテンシャルを
活かした
選ばれる施設

コンベンション機能の
強化



大規模な式典・学術会議

文化・芸術振興による
生活の質向上に寄与する施設

生活の質向上
地域コミュニティの創造

福島魅力を伝え
福島らしさを表現する施設

県都にふさわしい景観
福島の魅力表現

使いやすく
誰にでもやさしい施設

全ての人が快適に
バリアフリーに配慮

将来を見据えた
適正な規模の施設

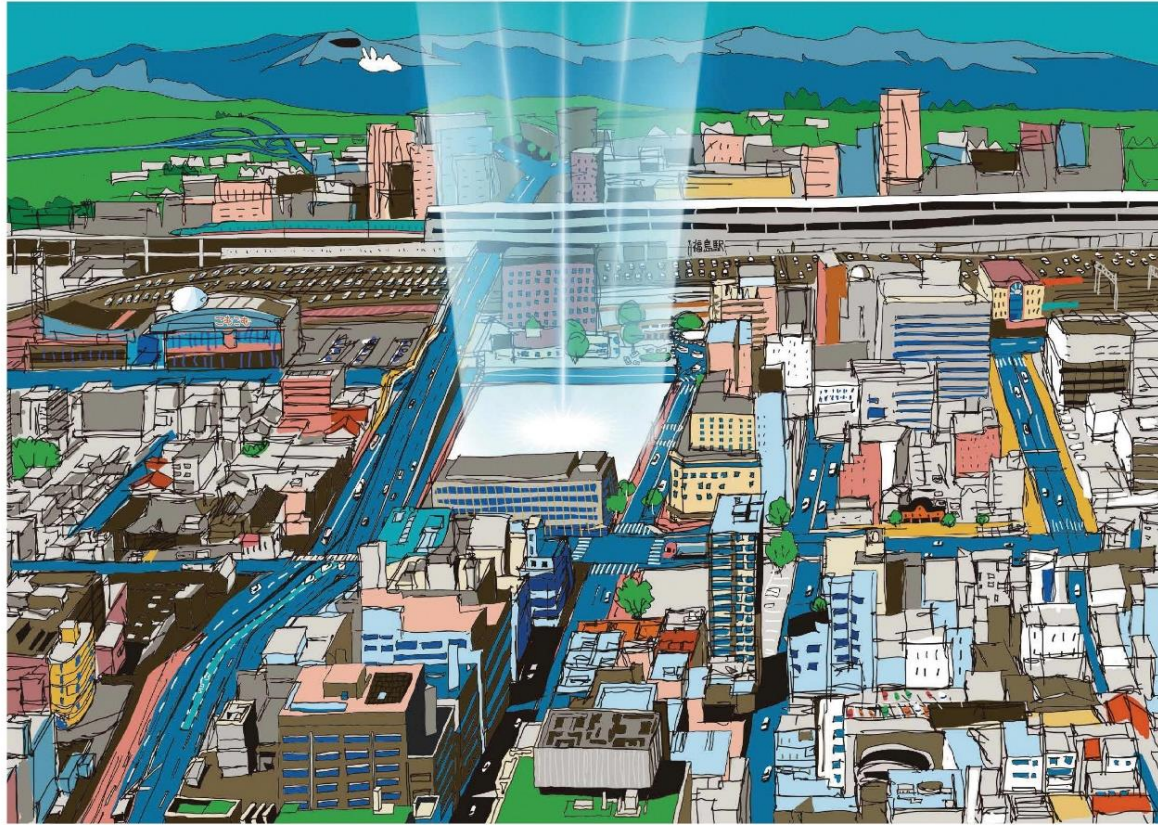
人口減少、少子高齢化を踏まえた
経営的な視点

安心・安全な施設

安全な耐震性能、災害時における
帰宅困難者等の一時受け入れも可能な施設

※写真はイメージです

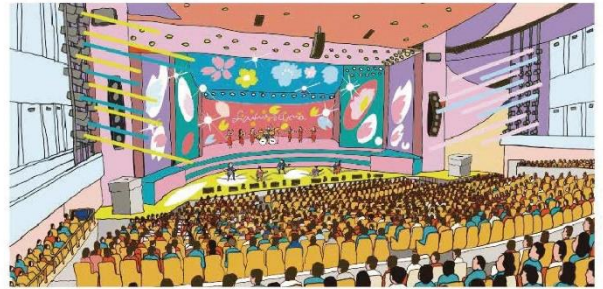
整備基本計画 概要②



駅前ホールとしては東北最大級^(※) ワンストップサービスが可能なふくしまコンベンション

東京や仙台、山形方面からの新幹線停車駅であるJR福島駅前という立地に加え、施設内にバンケット、宿泊施設が併設され、利用者の移動負担を最小限にします。新幹線停車駅前という立地では東北地方にこれまでになかった規模の複合型コンベンション施設として、市内の既存施設では開催が難しかった大規模の学会や大会等の誘致が期待でき、たくさんの人々の交流が生み出されます。

(※)新幹線停車駅前に立地する複合型コンベンション施設としては、東北最大級の施設となります。



福島を伝える花のホール 福島らしさを表現し、文化芸術活動の拠点となるふくしまコンベンション

花見山を代表とする「花」の魅力表現するなど、市外・県外から訪れる方々に対し福島らしさを感じ取っていただくための工夫を施したホールとします。また、市民芸術活動の発表の場として多くの団体等に利用されてきた公会堂に替わり、幅広い世代の人々が充実した文化芸術活動を行うことができる施設とします。



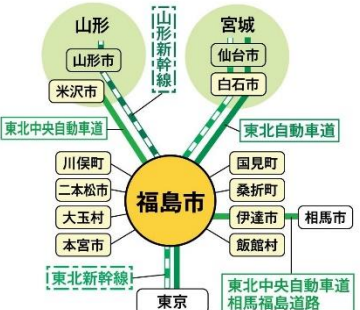
利用の幅が広がる フレキシブルなイベント・展示ホール 様々なイベントを可能とするふくしまコンベンション

イベント・展示ホールでは、全国の物産展や子育てイベント、グルメイベント、各種セミナーや学術会議に付随する企業展示やポスターセッション等、様々なイベントの開催が可能となります。催事の規模に合わせて、移動間仕切りにより分割した利用ができ、また、大ホールとあわせて使用することで、既存施設では開催できなかった大規模なイベント開催も可能となります。



まずは、まちなかへ集合 気軽に立ち寄り、日常的利用ができる ふくしまコンベンション

市民団体・サークル等による文化活動、生涯学習活動など、日常的に人が集い、にぎわいを生み出す施設とします。また、共用空間は、市民活動の発表の場となるイベントスペースや、読書・談話ができる空間等、市民が気軽に集い、憩えるスペースとしての活用を検討します。誰もが気軽に利用でき、さらにはまちなかに人が集うことで、中心市街地活性化へとつながる好循環を生み出します。



多様な交流の創出 「風格ある県都ふくしま」として、 広域的な拠点となるふくしまコンベンション

県庁所在地である本市は、福島・山形・宮城の3県にまたがる福島圏域11市町村の中心的役割も担っています。また、東北新幹線や山形新幹線をはじめ、東北自動車道、相馬福島道路、東北中央自動車道が整備され、多方面からのアクセス性が高い位置にあります。駅前に立地する本施設は、福島市民のみならず、広域的な利用にも大変利便性が高く、幅広い地域の人々が集う交流拠点とします。

整備基本計画 概要③

施設整備の基本方針を踏まえ、必要な施設構成や機能・規模を次のとおり計画します。

規模 約13,000㎡
(共用空間を除く本施設全体の規模)

特徴 大ホール、イベント・展示ホール、練習室・会議室群の諸室を
バランス良く備えたワンストップ型施設

施設構成	施設機能
大ホールエリア	<p>舞台、客席(1,500席程度。催事の種類に応じてフレキシブルな活用(客席数の変動)が可能な機能を検討。)、ホワイエ、楽屋等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大ホールは、ポップスやロック、ジャズ、吹奏楽等の音楽公演、演劇・舞踊等の公演、学会等多様な催事に対応できる多機能ホール。 ●舞台は、多彩な催事に対応できる広さの主舞台及び袖舞台を備えたプロセニウム形式。
イベント・展示ホール エリア	<p>イベント・展示ホール、ホワイエ等(ホールとホワイエをあわせ1,500㎡程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●展示会や物産展をはじめ、多様なイベントに対応できる音響や照明等の機能を整備。
練習室・会議室等 エリア	<p>練習室、リハーサル室、会議室等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●練習室や会議室は、可能な限り建物共用部と一体的かつ開放的に計画。 ●リハーサル室は、350～400㎡程度とし、移動間仕切りにより分割での利用も検討。 ●リハーサル室、練習室は状況に応じて会議室としても使用できるよう計画。
共用空間・ オープンスペース等	<p>エントランスホール、広場、共用ロビー等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地上階エントランスホールを開放的で華やかな空間構成とし、本施設と商業施設等を分断することなく、人の流れを上層階に導く機能を計画。 ●日常的なにぎわいの創出につながるよう、共用空間には、市民が気軽に集い・憩えるスペースを計画するとともに、小規模なイベントや展示空間としての活用を検討。

利用シーンにおける整備基本計画との比較

基本計画におけるハイブリッドホールの利用		劇場ホール 約1,000席		イベントホール 約1,500㎡（約1,500人収容）		備考
考え方	利用シーン・特徴	開催可否	開催可となる条件	開催可否	開催可となる条件	
1. 福島らしさを表現し、文化芸術活動の拠点となる施設	① 市民活動の発表の場 （舞台芸術系）	○		△	ステージや舞台機構、音響等の設備が必要	
	② 市民活動の発表の場 （文化祭、展示系）	×		○		
	③ 花見山を代表とする 「花」の魅力を表現するホール	○		○		
2. 様々なイベントを可能とする施設	① 全国物産展や子育てイベント、 グルメイベント、各種セミナー等	×		○		劇場ホールは鑑賞型イベントに限定
	② 学会に付随する企業展示や ポスターセッション	×		○		劇場ホールは鑑賞型イベントに限定
	③ 催事の規模に合わせ 移動間仕切りによる分割利用	×		○		
3. ワンストップサービスが可能な施設	① 再開発エリア内にバンケット、 宿泊施設を併設					再開発においてバンケット機能を確保することを検討・調整
	② 新幹線停車駅前という立地を活かした 既存施設では開催困難な規模の学会や大会等	△	協賛企業向け展示スペースや ポスターセッションスペースが必要	○		
4. 「風格ある県都ふくしま」として広域的な拠点となる施設	① ふくしま田園中枢都市圏(9市町村)をはじめ 広域的な利用で幅広い人々が集う交流拠点	○		○		
5. 気軽に立ち寄り日常利用ができる施設	① 市民団体、サークル等による 文化活動、生涯学習活動	△	市民センター利用を基本とするが、 大人数のハレの利用など	△	市民センター利用を基本とするが 大人数のハレの利用など	市民文化団体・サークル等の日常的な活動は市民センターが担う
	② イベントスペースや読書、談話 など市民が憩えるスペース	○		○		

凡例： ○…開催可能 △…条件付きで開催可能 ×…開催困難

マチニワ(八戸まちなか広場)

写真：八戸市ホームページより

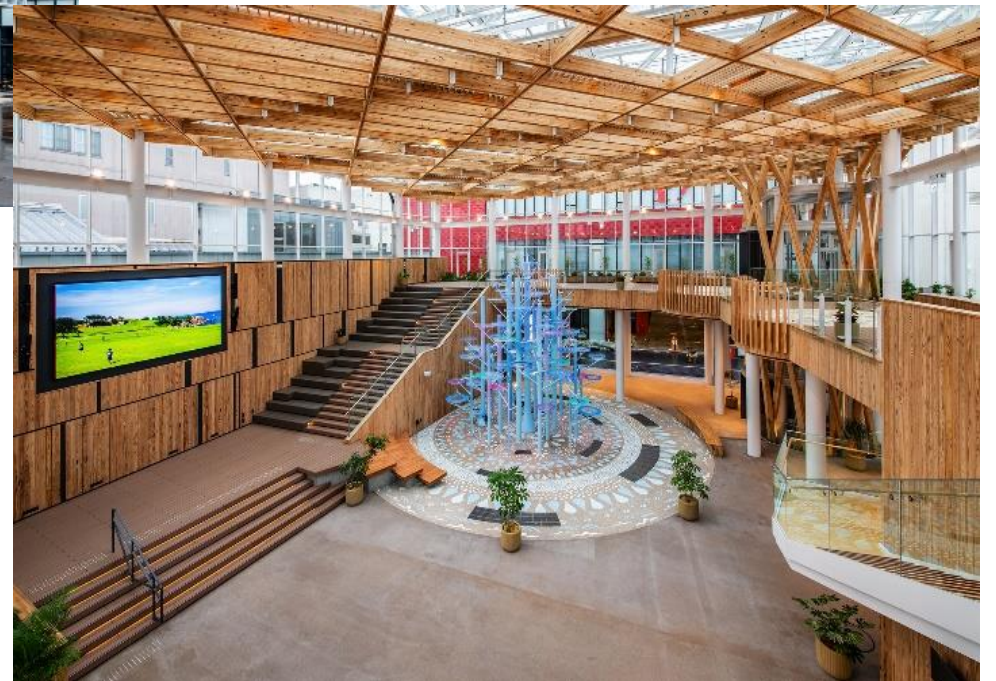
【施設概要】

- ・建設場所 八戸市三日町21-1
- ・敷地面積 1,091㎡
- ・建物面積 790㎡
- ・延床面積 1,250㎡
- ・広場面積 約500㎡
(参考:福島市まちなか広場 約1,400㎡)
- ・建物高さ 15m
(地上2階、地下1階)
- ・建築工事費 約17億円
- ・整備内容 休憩・観覧のデッキ、
備品倉庫、トイレ、植栽等
- ・供用開始 2018年度
- ・オープン時間 6:00～23:00



《利用イメージ》

- ・日常的な利用
マチニワは、街なかの「庭」のような役割を担うことから
開放性と冬季間の利便性の両立を図ります。
- ・ハレ
八戸三社大祭や八戸えんぶり、八戸七夕まつり等の地域を
代表する祭りやイベントと連動した利用や、新たなイベント
企画が期待されます。



《計画コンセプト》

「マチニワ ～にぎわい形成につながる新たな都市空間～」

- 居住者や来街者にとって魅力的で、生活を豊かにする
サードプレイス(居場所)の創出
- はっちや周囲の民間施設をつなぎ、文化・芸術活動等が
融合する洗練された空間の創出
- 小路、ヒト、情報が交わる空間として、地域コミュニティの
再生に寄与する拠点の創出

①不動産市況について【ホテル】

■コロナショックによる市場への打撃

コロナにより大きな打撃を受けたホテル市場は、コロナ禍の収束に伴い回復しつつあるが、とりわけ福島県におけるホテル需要の回復は遅れている状況にある。福島市内においては宿泊者数、稼働率ともに一定の回復が見られるものの、まだなおホテル事業者の取り組み姿勢は慎重な傾向。

・ 宿泊者数

	2023年平均(人)	2019年平均(人)	2019年比
全国	47,552,594	45,269,657	5%
福島県	816,424	955,320	-15%
宮城県	804,046	869,858	-8%
山形県	371,302	449,527	-17%
秋田県	244,917	300,002	-18%
岩手県	474,006	494,959	-4%
青森県	365,629	374,947	-2%
参考:福島市	61,659	64,034	-4%

▲観光庁観光統計 宿泊旅行統計調査 より抜粋

2023年と、コロナ禍前の延べ宿泊者数の比較。全国平均ではプラスに転じた中、福島県は-15%と、回復が鈍い。

【参考】福島市における宿泊者数の2019年比は-4%

・ 客室の稼働率

	稼働率	全国順位
全国	60.0%	—
福島県	44.9%	44位/47位
宮城県	64.0%	9位/47位
山形県	50.8%	34位/47位
秋田県	55.8%	26位/47位
岩手県	59.0%	14位/47位
青森県	64.4%	8位/47位
参考:福島市	71.3%	—

▲観光庁観光統計 宿泊旅行統計調査 より抜粋

2023年9月におけるホテル稼働率と、全国順位。全国的にみても稼働率が低い状況。

【参考】福島市における同月の稼働率は71.3%

①不動産市況について【ホテル】

■物価高騰によるホテルへの投資控え

昨今の物価高騰により、ホテルの建築コストや、運営に必要な諸費用が高騰し、全国的にホテル事業者やデベロッパーがホテルの新規投資に対して慎重な傾向にある。

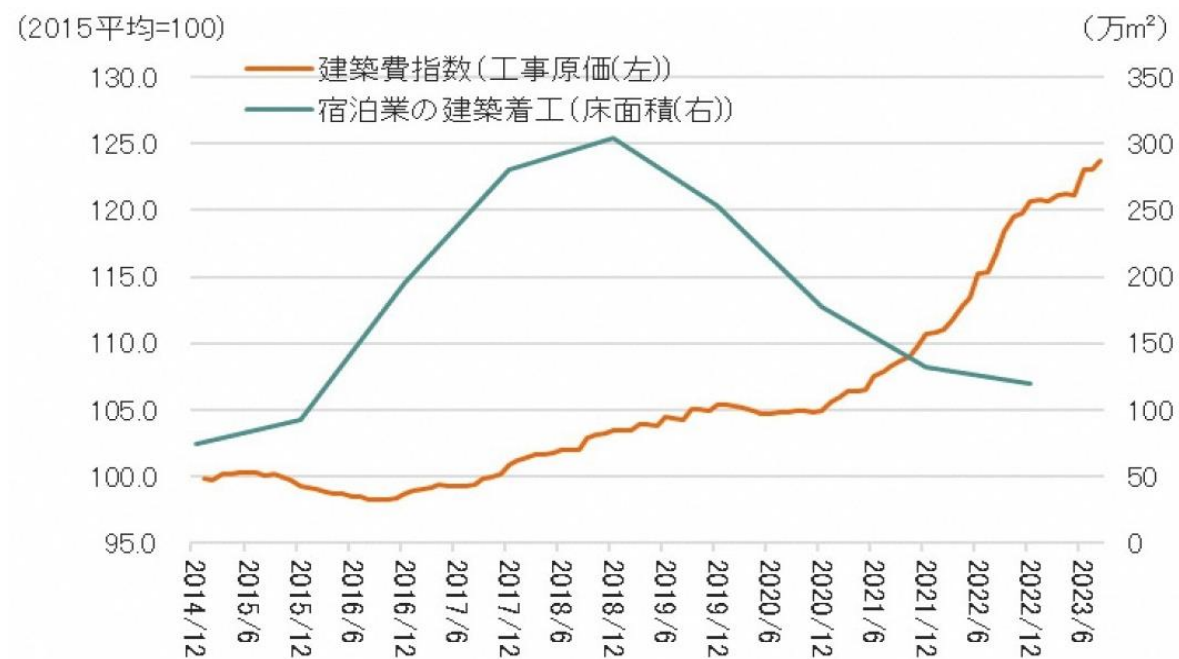
• ホテル建築コスト

ホテルの建築費は年々高騰しており、特に2020年以降の値上がりが著しい。これに呼応して、宿泊業の建築着工面積は減少しており、ホテルの収支計画が厳しくなっていることが見て取れる。(右図参照)

• 運営コスト

人件費や水光熱費、食材費等の高騰も、ホテルの経営を圧迫している。
とりわけ人件費の高騰に関しては、コロナ禍に従業員を削減したことで現在人手不足に陥っており、人材確保のために賃上げせざるを得ないことも、大きな要因となっている。

ホテルの建築費と着工面積の推移（全国）



▲国土交通省、建築物価調査会のデータより

コロナ禍や物価高騰による収益性の悪化の影響から、ホテル事業者が新規投資に対して慎重な傾向にある。

東口再開発について

①見直しのタイミング

- ・今が、市街地再生の好機と捉えるべき
- ・スピード感を持って再開発を進めてほしい
- ・見ていてワクワクするようなランドマーク的なものを、じっくり時間をかけてつくるべき
- ・工事を早く再開してほしい

②事業費不足への対応

- ・不足する事業費をクラウドファンディングやふるさと納税の活用により、市民から募ってはどうか
- ・事業費が不足しているならば、予算をもっと増やせばよいのではないか

③再開発の施設の方向性

- ・集いやすく魅力ある施設がよい
- ・駅前には、まちの希望になるような、立派で魅力ある施設がよい
- ・便利なだけでなく、まちを歩いてみたいと思えるような仕掛けが必要
- ・中途半端にならないように
- ・将来的に魅力のある文化的なまちになるような施設にしたい
- ・ワクワク感があると回遊性が生まれる
- ・市民の誰もが利用しやすい施設としてほしい
- ・既存施設との間で回遊性をもつ施設が必要

④施設の運営・利用

- ・ターゲットとなる人を呼び寄せるためには、具体的なコンセプトや内容が大事
- ・日常的な買い物と非日常的な観光のどちらをターゲットとするか
- ・ハコよりも中身が重要
- ・ソフト面をもっと考えてほしい

⑤再開発に求める機能

- ・イベントやコンサートが開催できる施設
- ・大学の一部
- ・医療・介護施設
- ・公園
- ・駅前にしかないブランド、テナント
- ・音響設備が充実した劇場ホール
- ・子どもたちが表現できる場所
- ・県内での就職希望者の受け皿となる企業が入ったオフィス
- ・買い物ができるような場所
- ・アミューズメントパーク、カラオケなどの娯楽施設
- ・子育て世代向けの親子カフェ
- ・漫画喫茶など安価に泊まれる場所
- ・企業と学生と行政のマッチングが生まれる場所
- ・若者向けの商業施設
- ・いろいろな人が意見交換や交流できる場所
- ・高齢者のためのベンチなど休める場所

東口再開発について

⑥利用層

- ・家族連れや、若者が気軽に訪れたい場所にしてほしい
- ・若者や学生が、継続的にまちづくりについて考えられる場がほしい
- ・老若男女幅広い世代が利用できるような場所にしてほしい
- ・家族で日常利用できる場所

⑦その他

- ・どのように使えるのか、使いたいかわ若者に意見を聴くことが大事
- ・もっと市民の意見を聴いてほしい
- ・進捗状況が見えづらいので見える化してほしい

駅周辺の交通・動線等について

- ・駅東口への交通の利便性を高めてほしい
- ・東西を有機的につなぐ面的な整備が必要
- ・今のタイミングを前向きに捉え、駅東西の連絡通路やペDESTリアンデッキなどを検討してほしい
- ・郊外から駅前への交通網や東西間のバリアフリー化など、公共交通の利便性を向上してほしい

西口の商業施設跡について

- ・商業と子どもが集まる施設や文化センターなどをあわせた施設がよい
- ・西口は観光客向けに整備するのもよい

東西一体のまちづくり

- ・福島らしさが感じられるよう景観への配慮
- ・他県から来る人に良いイメージを与えられる憩いの場がほしい
- ・回遊性のあるまちにするためには、歩くのが楽しくなるようなワクワク感を出す必要がある。
- ・市民が集える場所づくりが必要
- ・中高生が大人が交流できる場所にしてほしい
- ・観光に来る方、地元の福島市民の両方を対象に福島の特産品をもっと活かして
- ・仙台からも人を呼び込めるようなアミューズメント性の高いものを作っていく
- ・にぎやか、明るい、交流ができるなどの子育てがしやすい場所にしてほしい
- ・目的がなくても楽しめるような場所にしてほしい
- ・芝生スペースや学習スペースのように、いろいろな人が交流できる、自由に過ごせるスペースがほしい
- ・若い人が楽しめる地域になれば、定住につながる
- ・若者が立ち寄れる場所をつくることが求められている
- ・いかに情報を発信し、伝えるかが大事である